

都道府県名	徳島県
-------	-----

学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	鷲敷町立鷲敷小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	1	1	1	1	1	1	0	6	10
児童数	16	21	18	17	20	12	0	104	

研究の概要

1. 研究主題

児童一人ひとりの実態に応じた指導の充実 — 「確かな学力」の向上に資する指導方法の改善と教材開発 —

2. 研究内容与方法

(1) 実施学年・教科

全学年 国語・算数 学力検査の結果と教員から見た児童の実態から研究に取り組むこととした。

(2) 年次ごとの計画

平成15年度	テーマ 児童一人ひとりの実態に応じた指導の充実 研究の見通し（仮説） 中高学年の算数におけるつまづきが、九九や数の合成分解の習熟不足にあたり、文章が正確に読みとれないなど、国語の力が様々な面において力を伸ばすもととなっているのではないかと考える。 研究の内容・方法 読み 読書、読み聞かせ、音読などの回数を多くし、文字を読むことに対して親しみを持てるような支援をする。 書き 漢字の読み書きの徹底を図る。校内漢字検定やミニテストなどの実施。視写により文字を正確に書くことができるようにする。 計算 基本計算の反復練習により、より速く正確な計算ができるようにする。
--------	---

平成16年度	テーマ 児童一人ひとりの実態に応じた指導の充実 研究の見通し（仮説） 15年度のうえに、文章表現力や数学的な考え方を身につけさせるための方法を研究することを検討中。 研究の内容・方法 15年度の内容をふまえ、絞り込んだ内容にする。
--------	--

(3) 研究推進体制

各学年及び国語・算数の研究授業を行い、指導方法の確認や児童の実態把握に努めている。また、外部講師を招いたり、近隣フロンティア校の研修会に参加するなどして研修を深めている。

平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

知識や理解については、ある程度力がついていると見られる。また、教科に対する意欲についても高いものが見られた。しかし、算数における数学的な考え方や国語における文章表現力において、なお一層力をつけていくことが必要と感じている。

2. 今後の課題

児童にとっても、教師にとっても無理・無駄・むらのない実践を継続することが必要。今年度の実績をふまえて、学校として児童に必要な力、学級として児童に必要な力を身につけさせていかなければならない。児童の力を伸ばす上で必要な指導や支援が何かを検討する。

学力等把握のための学校としての取組

平成16年度2月に国語と算数の標準学力検査を実施。児童の実態を把握するとともに、今後の指導方針における一つの手がかりとする。

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

町内の教育研究集会において、今年度の成果を発表した。また、16年度に公開授業を予定している。

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- 【新規校・継続校】 ■ 15年度からの新規校 □ 14年度からの継続校
- 【学校規模】 ■ 6学級以下 □ 7～12学級
 □ 13～18学級 □ 19～24学級
 □ 25学級以上
- 【指導体制】 □ 少人数指導 ■ T・Tによる指導
 □ 一部教科担任制 □ その他
- 【研究教科】 ■ 国語 □ 社会 ■ 算数 □ 理科
 □ 生活 □ 音楽 □ 図画工作 □ 家庭
 □ 体育 □ その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 ■ 有 □ 無